



HOT ホトケさん通信

Vol.2

平成二十年二月号
【発行】箱庭の里
奥嶋の集い

生息確認「ホトケドジョウ」

北山田地区水路調査報告



絶滅危惧ⅠB類ホトケドジョウ

十月二十五日に琵琶湖お魚ネットワーク代表の武田 繁先生に来ていただき、現地調査を行いました。北山田中央部を流れる小川は植林の効果もあり、水量は絶えることなく流れています。浅瀬の泥を掬ってみるとホトケドジョウが2匹確認できました。ホトケドジョウは環境庁から絶滅ⅠB類に認定されています。山間の田んぼに近い所に生息しているのは県内でも珍しいとのこと。他にもドジョウの類やヤゴの種類も見つかり、この地域の希少性を十分に確認できました。

ただ石垣は崩れ始め、耕作されていない田を避けて、水路が変わろうとしています。このままでは絶滅も避けられない運命になります。武田先生は「他にも希少種が居る可能性は十分あります。ただ同時に整備しないと残すことは難しいでしょう」と仰っていました。素晴らしい資産を何とか次世代に残していく。今回私たちに課せられた使命でもあります。

参考「ホトケドジョウ」

環境省レッドデータブックでは絶滅危惧ⅠB類(細谷2003)に指定されている。滋賀県では2市6町、16例のみ確認されている。青森や中国方西部を除く本州及び四国東部に分布し、流れの緩やかな細流の砂泥底を住処としている。島町の生息地は飛び地になっているため、その生態を調べる上で貴重な所です。

事務局報告

一月二十四日、今回北山田再生のアドバイザーとして、専門分野で活躍されている仲間(環境任意団体「幻娛朗(げんごろう)」と一緒に今後の進め方について会議を開きました。北山田再生のミッションをベースに、この事業の具体的な方向性を決めて、今年度中に行う内容について検討しました。

◎ 北山田再生ミッション

- ・ 島町原風景を留めている北山田。この地に人が集い、生産の維持及び新たな生産資源を創造し、希少生物と共生できる場に再生します。
- ・ 住民は「知る」「考える」「納得する」「実践する」をモットーに、全員参加で事業に取り組みます
- ・ 島町が持つ景観、環境、伝統を偉大な宝物と捉え、未来に伝えることを、住民は誇りとしします。

◎ 今年度事業計画案

- ① 広報誌の発行によって、住民への周知を行う(毎月発行)
- ② 北山田地区地権者様に土地借用の同意を得る(2月中)
- ③ 対象土地の整備(草刈り・土地の整備等)を行う(3月中)
- ④ 理事会にて次年度事業計画の作成を依頼する(2月中)

山からの風

「近江高天原説」を提唱する文献には、ここ奥島が「おのころ島」(「世界で最初に創られた陸地」)であり、「高天原」(「古代の神々がすみ、政治などを行っていた場所」)の中心であったとする仮説があります。にわかには信じがたい話ですが、島町を取り囲む山々には多くの巨岩信仰が残っていること、山口に古墳群があること、縄文土器も発掘されていることなどから、少なくとも、ここには太古から先祖様が住みつき、自然に宿る神々に感謝しながら暮らしていたことは間違いないでしょう。